

雪紋

富山大学理学部同窓会報 2024 Vol. 43

富山大学理学部同窓会

<http://www3.u-toyama.ac.jp/alumni4/>



富山大学理学部同窓会の名称が「雪紋」に決定！

富山大学理学部同窓会の名称が『雪紋（せつもん）』に決まりました。雪紋は、理学部同窓会 30 周年記念誌の名称として用いられており、同窓会員にとっては馴染みのある名称です。その由来となる詩が 30 周年記念誌の裏表紙に書かれていますので、ここに引用いたします。

雪 紋

遠くにありて残雪を見る
春雷とともに去りし日々
山をくだり大河となるも
望郷の心やまず
ここに残雪を集め雪紋となす

また雪紋は、「雪の紋」すなわち雪の結晶という解釈もあるかと思えます。富山大学では、かつて雪の結晶を象った学章を利用していました。学章の変更に伴い、理学部ではそのデザインを受け継いだ理学部章を利用しており、理学部同窓会員にとって六角形の雪の結晶のデザインは親しみ深いものです。新名称「雪紋」が会員の皆様に末永く愛され親しまれる名称になることを願っております。

せつもん
富山大学理学部同窓会名称が「雪紋」に決定

ロゴマークデザイン 再募集

創立70周年記念事業として、学生のみなさんにロゴマークデザインを募集しましたが、決定には至らず、応募資格を広げて再募集することになりました。
みなさんの応募をお待ちしています！

最優秀作品一点	5万円
募集期限	令和6年11月30日（土）必着
応募資格	富山大学理学部同窓生 または 富山大学生（大学院生含む）

※ 詳しくはホームページの募集要項をご確認ください



http://www3.u-toyama.ac.jp/alumni/ http://www3.u-toyama.ac.jp/alumni/

富山大学理学部同窓会富山支部 2024 総会

日時：2024年7月27日（土）14：00～ 場所：富山県民共生センターサンフォルテ3階
議事予定 （1）令和5年度事業・会計決算報告 （2）令和6年度事業計画・会計予算案 他

富山大学理学部同窓会 雪紋 年次総会・記念講演会 2024

日時 7月27日（土）14：30～

場所 富山県民共生センターサンフォルテ3階
（富山県富山市湊入船町6-7）

記念講演会

2024年（令和6年）1月1日に発生した能登半島地震への関
心が高いことから、専門家の方々をお迎えして講演していただきます。

富山大学名誉教授 **竹内 章** 先生
「能登半島地震のメカニズム」

富山大学都市デザイン学部地球システム科学科
准教授 **安江 健一** 先生（地球45回生）
「能登半島地震の現地調査の結果」

年次総会

14：30～15：00

議事

- 令和5年度業務・活動報告、
会計決算報告、会計監査報告
- 令和6年度役員(案)
- 令和6年度事業・活動計画(案)、
会計予算(案) 他

記念講演会

15：10～16：40

懇親会

17：00～ 自遊館3階
会費 7,000円

申込方法

二次元コードを読み込み、フォームよりお申込みいただくか、
綴込みハガキを投函ください。

<申込締切> 7月22日(月)必着



雪紋

目次 contents Vol. 43

巻頭言

70周年記念の今後

同窓会会長 水島 俊雄……2

特集Ⅰ：理学部同窓会 創立70周年記念事業報告

創立70周年記念事業を終えて

実行委員長 大門 朗……3

特集Ⅱ：第16回サイエンス・フェスティバル2023

サイフェス2023を終えて

実行委員長 木山 幸柁……6

仲間と走りぬけたサイエンスフェスティバルまでの日々

副実行委員長 野口 結加……7

特集Ⅲ：キャンパスを振り返って

生物系富大生が感じた母なる呉羽山

宮澤 凱……9

劔岳とともに

齋藤 一磨……9

研究生活

成瀬真友香……11

山あり谷ありな6年間

井上 大知……11

運と縁

高木 蓮……12

特集Ⅳ：同窓生からの近況報告……14

特集Ⅴ：追悼

小島 覺先生との出会いに感謝

内山 秀樹……19

小嶋 學先生との年代を越えた思い出

小嶋研究室 OB・OG……20

後藤克己先生との思い出と共に

宮部 寛志……21

西村 格先生との思い出

川村 健介……22

水谷義彦先生の教えを継ぐ

岩月 輝希……23

富山支部だより

富山支部長 熊田 重勝……25

懸賞付きクロスワード・パズル……26

事務局通信……27

会員情報

活動報告

理学部キャリア・デザイン講座2023支援

2023年度 理学部同窓会役員・活動委員会名簿

2022年度理学部同窓会会計決算報告

国立大学法人富山大学理学部同窓会会則

富山大学理学部同窓会年会費集金に関する規則

年会費の納入状況を確認する方法

編集後記……32

70周年記念の今後

理学部同窓会会長 水島俊雄 (S49年1974年、物理学卒)



令和6年(2024年)、新年の始まりである元日は能登半島を震源とする大きな地震に見舞われました。被害が大きかった能登半島地方を含む石川県には多くの同窓生がいます。この原稿を書いている時点でまだ私の住んでいる富山市において体を感じる余震があります。被災された同窓生そして地域の皆様の早い復興を望むばかりです。

さて、昨年、理学部同窓会は設立70周年記念事業を開催しました。齋藤滋富山大学長、松田恒平理学部長をお迎えし、旧教員の先生方、関東支部長と副支部長、そして130名余りの同窓生の参加の元、記念式典、懇親会を催せました。記念講演では生物学科第32回卒業生、東京都医学総合研究所で脳・神経科学研究分野でプロジェクトリーダーとしてご活躍されている長谷川成人先生に認知症に関する興味深い講演をして頂きました。世界で活躍されている

同窓生の講演を聴けた事は私達の誇りです。参加してくれた同窓生の熱気を今後どの様に同窓会活動に結び付けていくかを考えねばなりません。

昨年度は大学院の学生を支援する研究助成制度を立ち上げました。令和5年度は3名の大学院生を支援することに決定しました。これからもこの制度を継続していきたいと考えています。また、70周年を機に理学部同窓会の名称を「雪紋」とすると決定しました。雪紋・理学部同窓会は第一には卒業した皆さんの為にあるのですが、準会員である現役学生に何が出来るかも考えて行きたいと思っています。雪紋会員の皆様のご支援をよろしくお願いいたします。

末筆ながら、この会報が届きます頃には能登半島地方の雪紋会員の皆様の復興が進んでいることを心からお祈り申し上げます。



創立 70 周年記念事業を終えて

70 周年記念事業実行委員長 化学科卒（第 32 回） 大門 朗

初めに、令和 6 年能登半島地震で被災された同窓生やそのご家族、関係者の皆様に心よりお見舞い申し上げます。

さて、昨年の 7 月 22 日に開催いたしました「富山大学理学部同窓会 創立 70 周年記念式典・講演会並びに懇親会」には、恩師の道端先生、藤森関東支部長をはじめ、県内外から本当に多くの同窓生の皆様にご参加いただき、深く感謝申し上げます。また、講演会の講師をお引き受けいただいた長谷川先生には、関西での学会終了後すぐに駆け付けられ、さらに懇親会までご出席いただき、本当にありがとうございました。

令和 4 年 4 月に開催された理学部同窓会役員会において水島会長から 70 周年記念事業実行委員長を任命されました。9 月に第 1 回実行委員会を開き、会長はできる限り多くの同窓生が集える場にしたいとの方針を示され、参加者数 100 名以上という目標を掲げました。その目標に向かっ

て、60 周年記念事業での募集方法を参考に、世話人を選定して協力をお願いし、講師や招待恩師の選定、記念事業の内容など多岐にわたって実行委員会で検討し、理事会での決定を経て開催を迎えました。参加者総数は 132 名、懇親会参加者 92 名と目標以上の同窓生の皆様とともに、理学部同窓会 70 周年をお祝いすることができ、心より感謝申し上げます。また、過去 3 年、新型コロナウイルスの影響で懇親会を中止してきたこともあり、時間を忘れて、酒を酌み交わし、語り合っている姿があらこちらで見受けられ、大いに盛り上がっていたと感じました。細かいミスは多々あったもののなんとか盛大に終了することが出来たのではないかと思います。

最後に、ご協力いただいた、松田理学部長をはじめ理学部教職員の皆様、水島会長や実行委員の皆様、事務局の小島さんに感謝申し上げます。

1. 施設見学会（参加者 65 名）

低温重力波望遠鏡（KAGRA）および次世代シーケンサーを利用した研究活動について、それぞれ物理学科の森脇喜紀教授と生物圏環境科学科の岩本玲佳さん（田中研究室 修士 1 年）より、ご紹介いただきました。



2. 同窓会総会

3. 70 周年記念式典

開会の辞

物故者への黙祷

同窓会長挨拶

感謝状贈呈

（歴代同窓会長：川田様、高井様）

祝辞

（齋藤学長、松田学部長）

記念事業

（同窓会の名称発表、寄贈品贈呈）

閉会の辞



4. 記念講演会（参加者 132名）

東京都医学総合研究所の長谷川成人 先生（生物 32 回生 1984 卒業）をお招きして、認知症研究の最先端についてご講演いただきました。生物学科道端研究室時代から現在の東京都医学総合研究所での認知症研究に至るまで、どのように研究を進めキャリアを積んできたのかについてもお話いただき、学生さんにも大変刺激になったのではないのでしょうか。なお東京都医学総合研究所のウェブサイトには長谷川先生の認知症プロジェクトがインタビュー形式で大変わかりやすく紹介されております。こちらもぜひご覧になって下さい。

→ <https://www.igakuken.or.jp/project/to-tomin/to-pro07.html>

演題「認知症の病態形成と進行機構」

東京都医学総合研究所
脳・神経科学研究分野 分野長
認知症プロジェクト プロジェクトリーダー

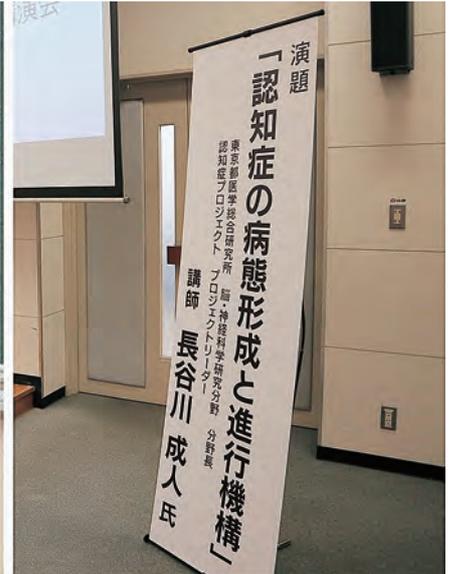
長谷川 成人氏

専門領域：生化学、分子生物学、神経病理学

所属学会（役職名）：
日本認知症学会（理事）、日本神経学会（代議委員）、日本神経病理学会（評議員）、日本神経感染症学会（評議員）、日本生化学会、日本アミロイドシス研究会

受賞歴：2007年度 東京都職員表彰（知事表彰）
2008年度 日本認知症学会奨励賞
2014年度 東京都職員表彰（知事表彰）
2022年度 時英利彦記念賞
2022年9月 クラリベイト引用栄誉賞(Citation Laureate) 2022受賞

経歴
1984年3月 富山大学理学部生物学科卒業
1986年3月 筑波大学大学院修士課程環境科学専攻修了
1988年9月 東京都老人総合研究所非常勤研究員
1993年4月 東京大学医学部脳神経学助手（文部教官）
1995年6月 英国MRC Laboratory of Molecular Biology Visiting Scientist
1999年2月 東京大学 大学院薬学系研究科 臨床薬学教室 講師（文部教官）
2001年4月 東京都精神医学総合研究所 分子神経生物学研究部門長
2016年4月 東京都医学総合研究所 認知症・高次脳機能研究分野長
2020年4月 東京都医学総合研究所 脳・神経科学研究分野長
現在に至る



5. 記念撮影



6. 懇親会（参加者 92名、於 富山大学生協）



サイフェス2023を終えて

第16回サイエンスフェスティバル実行委員長 化学科3年 木山 幸柁

2023年9月23日(土)、24日(日)に理学部棟内にて「サイエンスフェスティバル2023」を開催しました。昨年に引き続き今年も対面での開催となり、両日で1835名の方にご来場いただき、大盛況の二日間となりました。

サイエンスフェスティバルとは、理学部の学生が主体となり、地域の子どもたちに科学の面白さ、楽しさを体感してもらうイベントです。学科ごとに学生が幅広い分野の実験・展示ブースを企画し、今年は光るスライムづくりや生き物の展示、折り紙や超電導、骨の展示やしんきろうの再現などを披露しました。実験や展示だけでなく、大学の先生による「特別講演」、ワインや万華鏡に隠された科学を深掘りしていく「サイエンスカフェ」、人数限定での「トンボ玉 体験企画」。実行委員の方でも、展示物や割れないシャボン玉を作る体験ブース、スタンプラリー企画を行いました。さらに、ガチャガチャや景品を用意し、子供たちが少しでも楽しんでもらえるように努めました。当日の子どもたちの盛り上がりは想像を超えるもので、協力してくれた学生たちも、強く達成感を感じたと思います。

そんなサイエンスフェスティバルですが、開催に向けての準備はとて大変なものでした。私がこのイベントに関わり始めたのは2023年の6月頃、開催の4ヵ月ほど前からでした。それまではサイエンスフェスティバルに関わったことは一度もなく、興味本位で参加したものがいつの間にか本格的に活動していました。始めた頃は人手が少なく、集まった実行委員のメンバーもそのほとんどが私と同じく、初めてサイフェスに関わる学生でした。また実験ブースを担当するのも各学科の学生なのですが、協力してくれる人数も学科によってさまざまで、勧誘資料を作り、一から人員募集をした学科もありました。そんな中、先輩方から話を聞いて情報を集め、企画を考案し、話し合っ準備を進めていきました。話し合いの中で、「科学一周旅行～不思議な世界へ出かけよう～」を2023年のスローガンとしました。これはコロナが落ち着き始め、全国旅行支援などのキャンペーンが押し出されていた情勢と、子供たちに科学のあらゆる分野へ旅をして楽しんでほしいという思いから決定しました。

そのような思いも強くあり、子供目線で考えることを意識するように心がけていました。サイエンスフェスティバルでは例年、小学校から高等学校、さらには図書館に向けてチラシを作るのですが、そのデザインも子供が見やすいように色や配置を工夫しながら作成しました。チラシをよりよいものにするため、デザインに詳しい事務の方に見ていただき、自分が考えたこともない観点からのご指摘をバシバシ受けながら修正していく、といったことも行いました。私もデザインについてはそれほど詳しくなかったの

で、プロの視点に触れることができ、チラシがどんどん良くなっていくのが目に見えて分かりました。チラシに限らず、見積もりや仕事分担、企業の方とメールでやり取りしながら仕事を進めること、全体の進捗状況を見ながら声掛けをすることなど、サイフェスで委員長を務めたおかげで、普通の学生ではできないであろう多くの仕事を体験することができ、私自身、サイフェスを通して大きく成長できたと強く感じています。

実行委員をやっている一番思い出に残っているのは、開催二週間前からの準備も大詰め頃の事です。この時期には、実行委員同士も互いに打ち解けあっていたので、それまでは大変だった準備もメンバーで分担し、ワイワイ盛り上がりながら楽しく進められました。買ってきた弁当を休憩時間にみんなで食べたり、企画の一部をみんなの前で披露してみたり、空気が沈んでいるときはみんなで踊ってみたり、本当に楽しいものでした。そこからはあつという間で、気づけばサイフェス当日になっていました。

1日目は、私も実行委員のメンバーもかなり緊張していたと思います。お客さんは来てくれるのか、滞りなくブースは回せるのか、けがや事故が起こらないかなど、自分たちの行ってきた準備に対する「責任」を感じ、不安になる部分はありました。ですがそんな不安も、開始15分でお客さんが100人を超えたあたりからは薄れ、子供たちをどれだけ楽しませられるかに注力できたと思います。お客さんが帰られる際、少しお話を伺ってみると、「貴重な体験ができた」、「楽しかった」、「来年も来たい」、「帰りたくない」、「明日も来る」といった声をたくさん聞き、私も実行委員も内心とても喜んでいました。初めの緊張こそあったものの、1日目を無事に終わらせることができました。しかし予想を超える来場者数から、混雑によりブースの方が回すのが困難だ、という意見もありました。受付に混雑状況確認表を置いていたのですが、それだけでは不十分だということで、2日目は確認表をアップグレードする、混雑状況はお客さんに声掛けを行って通知するなどの工夫を試みることにしました。

2日目は、1日目を超えるペースでお客さんが来場しましたが、1日目からの改善を活かし、無事に子供たちを楽しませることができました。お客さんの中には1日目に来られていた方の姿もあり、自分たちで作上げたこのサイフェスを、とても誇らしく感じました。サイフェス開催日の2日間はあつという間に終わり、閉幕後は無事に終わってよかったという安堵感と、数ヵ月全力でやり遂げたという達成感に包まれました。実行委員のメンバーも、疲れきってはいましたが、やり遂げた喜びを感じてくれたようで何よりです。今年のサイエンスフェスティバルは例年に比べ

ると、かけた時間こそ短いものでしたが、その限られた時間の中で最高のものを作り上げられたと、振り返ってみて思います。

最後になりますが、同窓会の皆様、企業の皆様、理学部の先生方、大学本部や理事の方々、教務や総務の方々のお力添えのもと、「サイエンスフェスティバル 2023」を無

事開催することができました。そして実行委員のメンバー、ブースのメンバーなど、協力してくれたすべての学生のおかげで、サイフェスは大盛況のものとなりました。関係者全員へ御礼申し上げます。本当にありがとうございました。

またこの文章を最後まで読んでくださった方、最後まで読んでいただき、ありがとうございました。

仲間と走りぬけたサイエンスフェスティバルまでの日々

副実行委員長 地球システム科学科 野口結加

サイエンスフェスティバルは私にとってエネルギーをもらえる場です。

私がサイエンスフェスティバルに関わるようになったきっかけは、将来の夢にあります。私は科学博物館の学芸員を志望しており、サイエンスフェスティバルはまさに最適な場所です。なぜなら、子どもたちと実際に接すると同時に、科学や科学の楽しさについて学んでもらえる良い機会を提供することができるからです。サイエンスフェスティバルは当日の2日間だけではありません。前日までに準備が完了している状態をつくり上げる必要があります。そのため、準備までの計画、構想、連携などを綿密に行っていくことが大事になってきます。当日の2日間に向けて自分たちが一から考えた企画に、子どもたちが驚いた反応や楽しそうな姿を見せてくれるととてもうれしく思います。また、サイエンスの楽しさを知ってもらう過程や当日の子どもたちの笑顔は、将来に向けてのやる気とエネルギーを与えてくれます。

私は昨年度からサイエンスフェスティバルの実行委員を務めていますが、昨年度と比べて特に変化したことは仲間が増えたことです。仲間が増えたことで出来ることも準備に取り組むときの雰囲気も、さらには自分から出てくる言葉も変わったように思います。サイエンスフェスティバル

当日に近づいていくごとにお互いが打ち解けていき、仲間全員に心を開いていることに自分でも衝撃を受けました。サイエンスフェスティバルが日々の中心となった一週間前には、全員が朝早くから準備に来て夜遅くまで頑張っていました。仲間のおかげで私も頑張ることができ、何か自分にできることはないかと積極的に動いていたように感じます。サイエンスフェスティバルを成功させるという目標に向かって全員が真剣に向き合い、お互いを尊重しながら協力できたことに充足感を得られ、何より楽しかったです。前日や直前まで緊張状態の中、頑張ろう、楽しもうと声を掛け合い、当日の終わりにはみんなが疲れた顔で、しかし満足そうな笑顔で働いていたことを覚えています。お互いに応援しあいながらともに走り続けてくれる仲間に出逢えたことに感謝しています。

最後になりましたが、ご支援、ご協力していただきました同窓会の皆様、企業の皆様、大学本部の皆様、理学部長をはじめとする先生方、理学部総務・教務の皆様のご多大なるお力添え、さらには実行委員、学科代表、ブースのメンバー、サイエンスフェスティバルに関わったすべての方々に支えられて無事にサイエンスフェスティバルを終えることができました。この場をお借りして心から御礼申し上げます。本当にありがとうございました。



サイエンスフェスティバル 2023 実行委員



生物系富大生が感じた母なる呉羽山

2024年（令和6年）生物学科卒業 宮澤 凱

振り返ってみると、私が富山大学の学部生として過ごした4年間は本当にあっという間でした。飛ぶように過ぎていきましたが、充実したよい学部生生活であったと感じています。そんな私の大学生活をいつも陰で支えてくれたのが呉羽山でした。そこで、私の大学生活と呉羽山への感謝をここで述べたいと思います。

私たちが入学した2020年は新型コロナウイルスの世界的なパンデミックが始まった年であり、どのような大学生活になるのか全く分からない中でのスタートでした。楽しい大学生活が送れるのか不安ではありましたが、そんなスタートにもいい側面はありました。1年生の前期はオンライン授業が中心であり、自由に使える時間が豊富にあったため、私は何か新しいことがしたいと思い、減量を始めることにしました。というのも、私は受験生活で15kgほど増量してしまったため、対面で本格的に同期に会う前に元に戻しておきたかったのです。（入学すぐの健康診断で血圧が高く再検査になり、危機感を覚えたことも大きな要因ではあります。）私はランニングが好きではない（面白さを感じられない）人間なので、山歩きの減量することにしました。都合のいいことに、五福キャンパスの近くには1時間ほどで歩くことができ、私の好きな生き物達がたくさん生息する呉羽山があります。私は大好きな生き物を観察しつつ、授業の空きコマにここを歩くことにしました。最初の1-2週間は受験生活でなまり切った身体が悲鳴を上げていましたが、地元では見かけない様々な生き物を観察できたため、楽しみながら山歩きを続けることができました。これを1-2ヵ月続けると徐々に体力も戻り、体重もすると落ちていきました。こうして1年生後期の対面授業に

は比較的健康な体で出席することができました。

2-3年になると体力も戻り減量もできたため、呉羽山に登ることも少なくなりました。しかしながら、山歩きは、体はもちろんのこと心の健康にも良く、沈んだ心を浮き上がらせてくれます。心の晴れない日や考え事のある日、ストレスのたまった日などは呉羽山に登り、富山平野を見下ろしながら心をリフレッシュさせました。

夏になると、呉羽山では特に生き物たちが活動的になります。昼間でも様々な生き物を観察することができますが、夜や明け方には道路でもカブトムシやクワガタを見つけることができます。私はクワガタやカブトムシが大好きな大人なので、体を動かすついでにたくさんの昆虫を採集しました。大学入学以前は忙しさなどの理由から生き物と触れ合う時間が少なくなっていたのですが、大学入学以降は呉羽山でたくさんの生き物と触れ合うことができ、生物の面白さを再確認することができました。

4年生になり研究室に配属されると、大学生活で最も忙しい1年間が始まりました。研究が思うように進まず、めげそうになる場面も多くありましたが、毎朝マイナスイオンを浴びながら呉羽山を散歩し、生き物たちと触れ合うことで卒論提出まで乗り切ることができました。

私の大学生活の傍にはいつも呉羽山があり、いつも大きな優しさで包み込んでくれました。今富山にお住まいの方は今一度呉羽山に登ってみてください。きっとあなただけの温かさで、呉羽山はあなたを包み込んでくれるでしょう。私は本学大学院に進学するため、これからも呉羽山にお世話になっていこうと思います。

剣岳とともに

2024年（令和6年）化学科卒業 齋藤一磨

私の富山大学でのキャンパスライフは、「化学」と「山」に埋もれた日々でした。私は化学科に所属していたので、「化学」という学問にどっぷりと浸かることができました。その一方で、「山」での活動も存分に楽しみました。富山は、その名にもある通り山に富んでいます（実際の由来は異なるようですが）。これを無碍にするわけにはいきません。私は高校時分より山岳部に所属しており、大学においてもワンダーフォーゲル部（ワンゲル）に所属し登山を中心に活動を行っていました。

その中で特に思い出に残っているのは山小屋でのアルバイトと登山リーダー夏山研修会です。山小屋でのアルバイトは剣沢野営管理所でお世話になりました。剣沢野営管理所は立山の剣沢雪渓沿いにあり、堂々たる剣岳を望むことができます。野営管理所は登山客が宿泊する施設ではなく、登山客がテントを張って寝る場所（テント場）の管理を行っている場所です。その点で登山客の宿泊施設である一般の山小屋とは多少異なります。管理所でのアルバイト生活は基本的に管理所内での「共同生活」がメインで、その隙間

に登山客の受付や清掃業務があるというイメージです。管理所内にはライフラインはもちろんテレビやお風呂もあり、多少の制限はあるものの快適に生活できます。初めて管理所を訪れた際、これには驚かされました。管理所でのアルバイト生活はとて濃く、貴重な経験でした。業務に関して、特にトイレ掃除は慣れるまでが大変でした。というのも、トイレは水洗ではなく汲み取り式であり、ニオイが強烈であったためです。特に、夏場の気温が高く、じめじめとした日の清掃は想像を絶するものでした。また、登山のハイシーズンには1日に300～400人ほどがテント泊します。そのためテント場は緑やオレンジなどの無数のテントの絨毯のようになりとても美しかったのですが、その時期の受付業務は登山客が次々に訪れ大変だったのを覚えています。管理所の隣には富山県警山岳警備隊や医師の方々が駐在しており、一緒に食卓を囲み、普段聴くことができないような話を聴かせてもらい貴重な一時を過ごすことができました。管理所で同じシフトだったアルバイト仲間もユニークな人が多かったです。中でも大学2年生の頃に休学し、原付バイクで日本一周をした後に中国の沿岸部を旅した人の冒険譚は非常に興味深かったです。アルバイト外でも一緒に登山やクライミングに行く仲間ができました。

登山リーダー夏山研修会も大変貴重な経験でした。この研修会では8月の中旬に6日間の日程を通して、チームを率いて安全登山を達成するために足る登山技術や状況判断能力を養成する研修会です。講師は経験豊富な現役の山岳ガイドで、2日間の下界での座学や基本的な技術の確認をして残り4日間は劔岳周辺にて登山研修を行います。私は登攀を行うパーティーに参加しました。登攀は、アルバイ

ンクライミングを行う上で必要な技術で、研修会に参加する以前にもアルパインクライミングをしていたので改めて知識や技術を確認できました。その中で2つほど記憶に残っているのはクレバスを飛び越えたことと人を担いで下山する体験です。研修会の中で、平蔵谷（へいぞうたん）を詰めて劔岳の「南壁 AII」ルートに登攀する山行予定でした。平蔵谷登りは雪渓を登っていくのですが、その年は雪解けが早く所々にクラックが開いていました。急登である平蔵谷の雪渓登りをしばらくしていると、急に眼前にクレバスが現れました。クレバスを覗いてみると深淵がこちらを覗いていました。雪渓の両サイドに渡って裂け目ができていたのでここを避けては通れません。そこでの判断はロープをつないで飛び越える選択でした。僕はトップバッターだったので全力で助走をつけ、左足に目一杯力を込めてその黒い溝を飛び越えました。飛び越えた時は何とも言えない達成感でした。その後は雪上での支点を構築し仲間を引き上げました。初めてのクレバスとの邂逅でそれを飛び越えた体験は忘れがたいです。また、別日には救助訓練としてパーティーメンバー交代で人間を背負って下山しました。自分が背負ったのは体重80kgのメンバーで自分は60kgだったので自分よりも重い人を担いでの下山です。初めて人を担いで下山したのでそれだけでも新鮮だったのですが、山岳警備隊の方々は訓練や実際の事案でも行っているので心底尊敬の念を抱きました。

長々と私の「山活」話の一部を紹介しましたが、これらの「非」日常生活を通して人間として数段階成長できたと実感します。これからも普段から山と一緒に行ってくれた仲間や周りの関わりのある人々との縁を大切に、今際の際に後悔の残らぬように生きていきたいです。



劔岳とそれを望む人々



平蔵谷にて（クレバスに出会う前）

研究生生活

2024年（令和6年）大学院理工学研究科 地球生命環境科学プログラム修了 成瀬真友香

富山県で生まれ立山のふもとで育ち、植物や生物学に興味を持っていた私は、実験に没頭する生活に憧れを持って理学部生物学科へ入学しました。私は電車で往復3時間の所から大学に通っており、空きコマに帰宅もできず暇を持て余していました。2年の始めごろ、「暇なら顕微鏡を覗いてみない？」と先生から声をかけていただいたことがきっかけで、私の大学生生活の核となる「顕微鏡観察」が始まりました。高性能で巨大な顕微鏡で、ミクロな世界を見るのは非常に楽しく、週に何時間も研究室へ通い、サポテンを光らせてみたり、田んぼから採取したミジンコなどを観察してみたり、共同研究にも携わったりと夢中になって観察し続けていました。3年生の間はコロナ禍により自宅に引き籠ることになりましたが、中古の顕微鏡を購入し自宅でも観察をしていました。そんな中、それまで通っていた研究室で、JAXAと共同で宇宙実験「Plant Cell Division」が行われることになりました。植物を宇宙で観察する実験に関われるなんてあまりにも面白そうだと、3年後期から宇宙実験に向けた地上対照実験となる研究を開始しました。この宇宙実験では陸上植物の培養細胞と、水生植物である藻類コレオケーテの細胞分裂を軌道上で観察するという計画です。コレオケーテは淡水の浅瀬で生育する藻類で、シート状で円形に広がって成長する面白い形態形成をします。私は地上対照実験として、コレオケーテを360度回転させ続けることで擬似的な微小重力下で培養したり、遠心による過重力下で培養したり、気相中で培養したり、重力環境変化がコレオケーテの細胞分裂や藻体成長に与える影響を観察し続けました。コレオケーテを用いて卒業論文・修士論文研究を行いながら宇宙実験の予備実験を並行し、隙間を見つけては個人的に藻やプラナ

リアやアメーバを観察するなど、ひたすら観察の日々でした。藻類の重力実験は例が少なく、何度も壁にぶつかり辞めたいほど苦しい時もありましたが、振り返ると非常に充実した学生生活を送れたと思います。個性豊かな同期、先輩、後輩、先生方と過ごすのはとても楽しかったです。学会発表やJAXAへの出張、大型放射線施設や国立遺伝学研究所など日本全国いろいろな所へ行き、出会った方々からは多くの学びと刺激を受けました。「実験を沢山してみたい」と入学して6年。自由に研究をさせてくれた両親には本当に感謝しています。24年間過ごした富山での6年間は、私の人生の4分の1も占めるのに、あっという間でした。富山大学での経験や出会った人々との思い出はずっと私を支えてくれると思います。



コレオケーテを培養しているインキュベーターの前にて。
右上が藻類コレオケーテです（Bar = 50 μm）。

山あり谷ありな6年間

2024年（令和6年）大学院理工学研究科 生命物質化学プログラム修了 井上大知

私にとって修士課程まで含めた6年間は様々な方面で成長を実感できた経験であると思う。

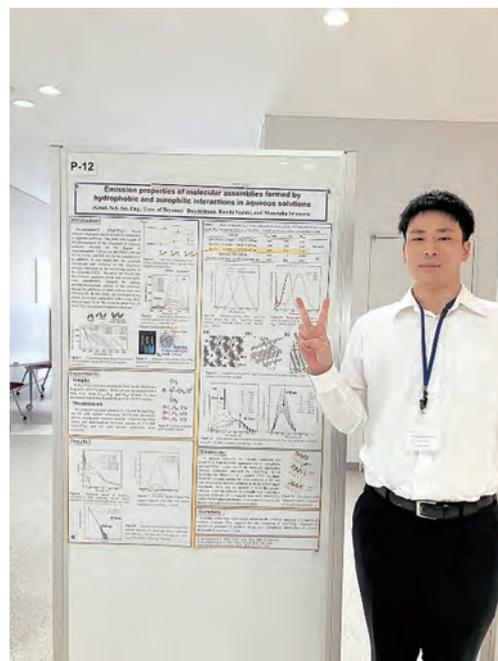
理学部化学科に来た理由は、大学入試の化学が他の教科よりは幾分か得意であったからという今思い返せば浅はかなものである。そのこともあり、最初はあまり化学の面白さをわからずにいたが、量子化学の講義で化学結合論を学んだときにこれまでの化学に対する価値観が変わった。何気なく原子と原子がくっつくくらいにしか思っていなかったがその奥に潜む理論がとても面白かった。これをきっかけに研究室は光化学研究室を選び、大学院への進学を決めた。

いざ研究室に入り私がもらった研究テーマは、界面活性剤の中の[Au(CN)₂]⁻会合体のダイナミクスを帰属するというものであった。[Au(CN)₂]⁻という錯体は金原子間に光励起によって共有結合ができ、会合体をつくるという私に

にとっては大変興味が湧いたので自らの意思でこのテーマを選択した。面白いと思っていざ研究を始めてみると、想像以上に実験は地味で結果を見ても何が何だかわからなかった。また当時行っていたアルバイトでの人間関係的なストレス等も重なり、精神的に病んでしまった時期があった。研究室にも行くことができず家に引きこもってしまい、あの時は研究室メンバーと先生方には大変迷惑をかけてしまったと反省している。そんな私を見捨てずに支えてくださった岩村先生と野崎先生、そして当時の研究室のメンバーがいなければきっとあの場でリタイアしていたと思う。苦しみながらもなんとか卒業論文をやり切り、ひとまず修士課程に足を突っ込んだ。日当たりのいい物件に引越すなどして心機一転し、もう一度研究にトライしてみた。実験も教科書的なことだけでなく、溶媒にアセトニトリルを混ぜてみたりするなど少し横道にそれるようなことをし

てみた。すると、今までできなかった結晶が取れたりなどといった新発見が多く得られ、研究が楽しくなった。それに伴い、できる実験の幅も大きく広がり、自分の研究テーマの神髄に迫っていることを実感できた。特に印象に残っているのが理化学研究所で測定したフェムト秒過渡吸収スペクトルから金原子間の結合の生成の確固たる証拠である核波束振動を実際に観測できたことである。光化学という領域を選んだきっかけとなった化学結合を実際に目で見られたことの感動は今でも鮮明に覚えている。この結果を携えて挑んだ夏の学会の口頭発表の後に、他大学の先生方に褒めていただけてとてもうれしかった。この6年間で挫折と成功の二つの体験をしたことは自分にとってとても財産になった。4月からは社会人になるが、この経験を糧に精一杯頑張りたいと思う。

最後に、あのハードな化学科のカリキュラムを共に乗り越えた友人たちと研究室のメンバー、熱心にご指導してくださった先生方、そして、大学院まで通うことを応援してくれた両親、お世話になったすべての人に、この場で感謝を申し上げ、私のこの話を締めたいと思う。



学会のポスター発表にて

運と縁

2024年（令和6年）数理・ヒューマンシステム科学専攻博士課程修了 高木 蓮

私は11年前に岐阜県から数学者に憧れて、富山大学理学部数学科に入学しました。数学科では新入生に対して、大学生活や学習のサポートのために助言教員がついていただけです。私の助言教員は後に修士課程と博士課程の指導教員を引き受けてくださる恩師永井節夫先生でした。大学で習う数学は高校までに習ってきた数学に比べてより厳密に数学を構成するために数学的記号論、集合論をはじめに代数学、幾何学、解析学を学習していきます。馴染みのない数学的記号を使った議論につまずき、私は数学への道を諦めようと考えていました。専門を何にするか決められず、ゼミナールを決定する日を迎えてしまった私は助言教員である永井先生が担当する微分幾何学のゼミナールに所属することにしました。このゼミナールへの所属を期に私の数学学習は大きく変わりました。永井先生は私に数学という学問の勉強の仕方を一から教えてくださいました。私の発表がないときも同級生、後輩、先輩方のゼミナールに参加することで私も発表に使われた専門書や論文の学習ができました。ゼミナールを続けていくうちに英語の専門書や論文をスムーズに読むことができるようになり、自分で研究ができるレベルまでに到達することができました。博士課程次、「複素射影空間内の等質実超曲面の ϕ -断面曲率の最大値、最小値」という研究課題に出会い、とても苦労しましたが無事に解決することができました。初めて論文が雑誌へアクセプトされたときの喜びは忘れることはありません。

学部4年次に高等学校での教育実習を受けました。授業やホームルームの運営など経験のないことに直面した際には、高等学校の先生方はもちろん、永井先生にも多くの助言をいただきました。ホームルームや毎日の生徒が付ける

日誌のやり取りによって自分の担当させていただいた学級の生徒と多くのコミュニケーションをとることができました。教育実習最後の研究授業ではアクティブラーニングの機会が少ないという課題は残りましたが、授業計画に沿った堂々とした授業ができました。永井先生には富山大学の修士課程に入学してから研究活動のご指導に加え、さらに、学部、修士を問わず、あらゆる講義を頻繁に見学させていただきました。永井先生は数学研究だけでなく、日本数学教育学会への参加や富山大学附属中学校での授業など教育活動にも熱心に取り組まれています。私も富山大学附属中学校での数学の授業を見学させていただき、生徒が自分自身で問題解決に努め、発言を盛んにおこなう授業風景に驚かされました。毎年の大学の講義では授業内容を常にアップデートし、スライドや板書計画を私にも見せていただけました。現在、私は一般教科（数学）担当助教授として高等専門学校に勤務しています。永井先生のような熱意ある教育姿が私の目標であり、研究活動だけでなく、授業構築にも努めていきます。また、学級担任、学校運営、さらに学生寮の指導の際は永井先生が私にくださったように、学生、先生方としっかりとコミュニケーションをとっていきます。

永井先生が教員を志望する学生や数学科の卒業生へ向け「人生は運と縁」というお話をよくされてきました。富山大学に入学し博士の学位を取得できたのも永井先生をはじめ富山大学の先生方のおかげです。多くの友人にも恵まれ、充実した大学生活を過ごすことができました。富山大学での出会いが私を大きく成長させてくれたこと、本当に感謝しています。そしてこれからも多くの人との出会いを大切に過ごし、数学だけではなく多くのことを学んでいき

たいです。また、永井先生が私にしてくださったように多くの高等専門学校の学生の夢の実現を応援していきたいと思いを。

2023年（令和5年）度寄付報告

同窓会活動へのご寄付におきまして、多くの皆様からご支援を賜りましたことをここに御礼申し上げます。ご寄付を頂いた皆様のご芳名を掲載して謝辞を表し、ご報告させていただきます。

（順不同・敬称略）

- [数学科] 亀井 和紘、井河 弘一、三屋 龍太郎、橋本 徳倫、中野 光晴、大野 麻波
[物理学科] 松嶋 孝司、高井 正三、森山 健三、工藤 裕章、裏 則岳、長谷川 誠、野田 良彦、寺山 明哲、西村 五義、村上 正浩
[化学科] 平田 卓郎、大門 朗、平出 武、滝川 敏男、長堀 征雄
[生物学科] 仲 賢輔、井上 チイ子、黒金 智文、直田 美千子、小田 和代、松本 諒、松井 純、森村 悠生、石田 一真、久保田 正幸
[地球科学科] 木戸 瑞佳

匿名 15名

2023(令和5)年度 寄付件数 47件 寄付総額 518,000円

雪紋への寄付のお願い

送金先：ゆうちょ銀行 口座番号：00700-0-16829 口座名称：富山大学理学部同窓会

同窓会活動を円滑に行うために、会員からの寄付を募ります。

一口5,000円で、何口でも、ご協力をお願い申し上げます。

- ※ 通信欄には「おところ」「おなまえ」の他に、「ご卒業学科」「ご卒業年」をお書き添え下さい。
- ※ 同窓会報等の発行物に、氏名の掲載を希望されない方は、その旨もお書き添え下さい。
- ※ 同窓会会員から寄付されたご芳志は、理学部サイエンスフェスティバルへの支援、理学部の教育・研究支援、理学部学位記授与式・祝賀会支援、記念品贈呈、同窓会広報 雪紋 発行費への補助に使用します。

特集Ⅳ：同窓生からの近況報告

理学部を卒業された同窓生の皆様が卒業後どのような分野でご活躍されているのかを記事にすることで、理学部同窓会をより身近に感じていただけることを期待し本特集を企画しました。今回は、メールアドレスをお知らせいただいている1985年から2010年に卒業された会員に近況報告を依頼し、ご回答いただいた方のものを掲載しております。ご回答いただいた方には、編集委員一同、心より感謝申し上げます。

1985年（昭和60年）数学科卒業 船木 敏郎

現在の勤務先と所属・役職

アイテック阪急阪神（株） 資材部・嘱託

どのような仕事内容

調達業務管理、法令／社規遵守

仕事のやりがいを感じる時

お互いに笑顔で業務遂行できた際

大学時代の思い出

田中専一郎先生ゼミで行ったボウリングやら数学科で

のソフトボール大会やら、池に放り込まれた文化祭やら、社交ダンス同好会 Club で開催したダンス Party 等、楽しかった出来事を語り尽くすには本用紙10枚ほど要りそうです・・・☺

同窓生（卒業生）へのメッセージ

令和6年能登半島地震で被災された皆様には心よりお見舞い申し上げます。

我々も微力ながら被災地の一日も早い復旧を願って協力していきたいと思います！

1994年（平成6年）化学科卒業 清都 勢憲

現在の勤務先と所属・役職

北陸くらす株式会社・代表取締役

どのような仕事内容

休日に歩いて楽しめる市街地をつくるため、ジェラート製造販売と不動産仲介を行っています。来春からはカレーパン専門店を開業するための準備も進めています。



2024春オープンを目指すカレーパン専門店（試作品）

仕事のやりがいを感じる時

信じられないことに、「東京一極集中の時代だから地方は衰退していくしかない」「知的な人は都会へ出て仕事

できない人が地方に残る」などと考えている本当に多くいます。それに反論するため、楽しい雰囲気のまちをつくることに人生を賭けることを決めました。少しずつ目標に近づいていると実感できることが一番の仕事のやりがいです。

大学時代の思い出

反応やカラムで新たな化合物を生成して、分光光度計やNMR測定したり楽しかった気がします。研究室で室堂へ旅行へ行ったのも楽しかったようなかすかな記憶があります。

同窓生（卒業生）へのメッセージ

化学の知識があると美味しいジェラートをつくることができます。各種糖類の配合による凝固点降下や、脂肪や氷の結晶の状態による食感の変化の仕組みが理解できます。興味あるかたは是非、化学の知識を活かして美味しいスイーツづくりにチャレンジしてください。

1996年（平成8年）数学科卒業 蛭田 健司

現在の勤務先と所属・役職

株式会社 TBS テレビ特任執行役員 ゲーム事業責任者

どのような仕事内容

TBS グループを放送事業者から総合コンテンツ企業に進化させるために、ゲーム事業を立ち上げています。ゲーム業界は右肩上がりの成長を続けており、給与水準も高く、進化も速いです。グループの柱となる事業に育てたいと思っています。

仕事のやりがいを感じる時

関係者、お取引先様、顧客に喜んでいただけた時にやりがいを感じます。この順番が大切で、身近な人たちから順に幸せを広げていかないと、遠くまで届かないのだと思います。

大学時代の思い出

同好会を立ち上げたり、他学部の講義に多く参加したりと、好きなことばかりに打ち込んでいました。そのおかげで、今でも好きなことを仕事にできています。

同窓生（卒業生）へのメッセージ

大学に入ったばかりのころはゲームクリエイターになんてなれっこないと思っていましたが、実際にはどの学部・学科からもなれます。思い切って挑戦して良かったと心から思います。就活の際にはやりたい職業にぜひチャレンジしてみてください。



1997年（平成9年）化学科・理学研究科化学専攻 修了 今井 亮二

現在の勤務先と所属・役職

新潟県立松代高等学校・校長

どのような仕事内容

高校の校長として、学校の運営を行います。特色ある学校づくりの方向性を定めたり、自校の魅力をアピールすることが、特に大事な仕事です。

仕事のやりがいを感じる時

生徒が生き活きと活動し、笑顔を見せてくれるときです。

「学校が楽しい」「この学校に入ってよかった」と思ってもらうことがやりがいであり、私が最も大事にしていることです。

大学時代の思い出

大学4年からの研究室での生活です。当時は日付が変わるまで実験をすることもありました。つらいことも仲間がいたから乗り越えられたと思っています。頑張ってもなかなか結果が出ずにへこたれそうになりましたが、粘り強く続けて結果が出たときは本当に嬉しかったです。

1998年（平成10年）地球科学科卒業 村上 志信（旧姓 忽那）

現在の勤務先と所属・役職

市立室蘭総合病院 主任

どのような仕事内容

看護師

仕事のやりがいを感じる時

人の役に立っていると感じる時

大学時代の思い出

理学部で素敵なパートナーと出会ったこと

同窓生（卒業生）へのメッセージ

人生万事塞翁が馬です

1998年（平成10年）生物圏環境科学科卒業 村上 仁（旧姓 水谷）

現在の勤務先と所属・役職

道南バスの平社員

どのような仕事内容

運転手

仕事のやりがいを感じる時

一切ない。自分の裁量で判断できないことがないため。

大学時代の思い出

蒲池先生と九州にラーメンを食べに行ったこと

同窓生（卒業生）へのメッセージ

年収が低いです。勉強しても金にはなりませんね。

1998年（平成10年）数学科卒業 手塚 敦士

現在の勤務先と所属・役職

北海道旭川北高等学校 教諭

どのような仕事内容

数学の教師として勤務している。現在4校目で、進学校のため授業のほか、土曜講習や長期休暇の講習など教科指導が主な仕事ですが、部活動（ソフトボール部）の指導等もあり、土日の出勤も多くなっている。

仕事のやりがいを感じる時

数学の指導で、「わかりやすい」と感謝されたり、志望校に合格して喜んでいる姿を見るとき。また、部活動の指導で、生徒の成長する姿を見るとき等。

大学時代の思い出

とにかく数学の授業が難しく、できない自分を痛感した。それでも、数学の教師になったので、数学は好きなんだとは思う。大学での講義より、サークル活動やアルバイト、

海外旅行に何度も行ったこと、そして、友人達との何気ない毎日すべてが良い思い出です。

同窓生（卒業生）へのメッセージ

親になって、学費や生活費を払うことがこんなに大変なんだと気づいた。そんな親への感謝の気持ちを忘れず、いろいろな経験をして充実した大学生活を送って下さい。



1998年（平成10年）数学科卒業 瀬戸 道生

現在の勤務先と所属・役職

防衛大学校総合教育学群・教授

どのような仕事内容

数学の教育と研究

仕事のやりがいを感じる時

自分の考えたことや話したことがおもしろいと言われたとき

大学時代の思い出

大学時代に学んだことが今の自分を構成していると改めて思います。

同窓生（卒業生）へのメッセージ

「機械学習のための関数解析入門」という本を書きました。



三浦半島にて愛犬と

1998年（平成10年）地球科学科卒業 岡本 康志

現在の勤務先と所属・役職

個別指導・学習塾 サポーツ京田辺 代表
NPO法人 凸凹革命 理事長

どのような仕事内容

- ・発達障害・特別支援領域の療育指導も含めた、グレーゾーンをターゲットとする学習塾
- ・行政機関とも連携した、ひきこもりの就労支援および一時居住シェルターの運営
- ・地元公立学校とも連携したフリースクールの運営

仕事のやりがいを感じる時

直接的に関わる生徒の学習効果や、福祉的な支援者さんなりにも、明るく変わっていくことはもちろんやりがいがあります。しかし、それ以上に、経営者ですから、誰かが指示してくれる範疇というわけではなく、本当にフリーに「これからどうするか?」という固定観念に囚われず、自分なりに考え行動していく自由さと影響力は、我ながらこの立場になるまで、想像すらし得なかったやりがいがあります。

また、自分が考えた活動を実現実行するためには、自分ひとりではなく、若いスタッフの皆さんを育てて、まだ見ぬ“解決策”を実行できるような人材に育てる必要があります。そうやって、自分自身が暗中模索で時間がかかった成長を、少しでも早く若いみなさんが成長していく様を見

ることができるのは、何よりも本来自分がしたかった“教育”としてのやりがいを感じます。

大学時代の思い出

理科の教員免許取得のための大学進学に加えて、競技スキーに傾倒していたため、当時全国唯一“雪氷学”の研究室があり、スキー・スケートの滑りの研究をされていた、對馬教授のご指導を受けたく、ピンポイントで富山大に進学した私ですので、競技スキーの活動資金作りのアルバイトから卒論研究まで含めて、スキーに関する活動に明け暮れた学生生活でした。

同窓生（卒業生）へのメッセージ

私の場合、学生時代はただの理科教員になる予定でしたが、数々の数奇な出会いもあり、気づけば、個人事業主として経営者の端くれとなり、また、それこそ市長レベルの行政機関とお話できるような社会活動をさせていただいています。

そうやって、わが子が大学生になる世代となって省みて、「人生ってわからないものだな」と切に思います。

経済情勢なども鑑みると、今の若い世代にとって、明るい展望を持ちにくいご時世だと思います。しかし、「人生はわからない」わけですから、固定観念に囚われないチャレンジを続けることによって、明るい未来を切り開いて欲しいなと思います。

1991年（平成3年）地球科学科卒業 堀 雅明

現在の勤務先と所属・役職

応用地質株式会社地球環境事業部地盤環境部・専門職

どのような仕事内容

現在は、土壌や地下水の化学性質を把握することによる、土壌・地下水汚染、自然由来重金属汚染に関する計画・調査・検討・モニタリング・評価に関する仕事をしております。

仕事のやりがいを感じる時

自然科学の知識をつかった仕事に携わることができる時

には、学生時代に学んだことが生かせていると感じられ、同時に、やりがいも感じます。

大学時代の思い出

指導教官の水谷義彦先生（故人・陸水学講座）と立山に噴気孔ガスの採取を行ったこと。

バスケットボール部で4年間過ごしたこと。

同窓生（卒業生）へのメッセージ

30年以上、同じ会社に勤めています。時々、同窓生の名前を聞いたりすることもあり、励みにしています。

現在の勤務先と所属・役職

国土地理院 地理調査課・課長補佐

どのような仕事内容

防災地理情報等の整備・提供、災害対応

仕事のやりがいを感じる時

成果が社会等で活用された時

大学時代の思い出

地質調査法実習、野外調査

体育会ヨット部への活動支援のお願い

創部から60年、OBと現役の悲願だった全日本インカレに、一昨年度団体戦（琵琶湖）に初出場。昨年度も予選を勝ち抜き、全日本インカレ団体戦（福岡）に連続出場することができました。今年度は、更なる高み（団体戦10位以内、国公立大学3位以内）を目指して練習中。ただ、部員の安全確保のための救助艇が老朽化しており、買い替えが必要になってきています。是非皆さまのご寄附をお願いいたします。

① OB会による支援（直近2年）

2022年度：スナイプ艇1艇（240万円）を富山大学へ寄贈。遠征費120万円補助、他にOB会より25万円を支援

2023年度：470艇1艇（280万円）を富山大学へ寄贈、遠征費60万円補助、他にOB会より25万円を支援

② 活動支援のお願い

富山大学のホームページ「https://www.u-toyama.ac.jp/studentsupport/extra-activities/extra-activities_kikin/」から

- ・課外活動支援基金に寄附をお願いします。（老朽化したレスキューボート購入資金）
- ・ご意見欄に「ヨット部指定寄附」と記載してください
- ・寄附金は税制上の優遇措置が受けられます。
- ・ヨット部に寄附していただいた個人、団体様名を購入予定のレスキューボートの銘板に記載させていただきます。（希望される方）

ヨット部にご縁の無かった方も、私たちが育てていただいた富山大学への恩返し、社会貢献として、ご検討くださいますよう、お願いいたします。

富山大学体育会ヨット部OB会 北陸支部 天野雅之（理学部37回生）



小島 覺先生との出会いに感謝

株式会社ドーコン環境保全部 内山秀樹 (H9=1997 理学研究科修了)

昨年、小島覺先生の突然の訃報を受け、たいへん驚き、悲しみに打ちひしがれました。それから約1年が経ち、今は先生から賜ったご恩への感謝の念を強くしているところです。

私は、富山大学理学部4年生から大学院理学研究科修士課程の3年間、小島研究室で先生から公私にわたりご指導を賜りました。当時は、先生が教養部から理学部に異動されたばかりで、まだ研究室には卒論生も修論生もいなかったため、研究、特にフィールドワークに関するいろはを先生から直接、たいへん丁寧にご指導いただいたことを覚えています。

研究室で最初に教わったことは、植物の同定の仕方です。大学構内に生育する植物を採集し、図も写真もない文字だけの「新日本植物誌」を使い、植物形態の専門用語に悪戦苦闘しながら、種を同定していきます。同定は図鑑の図や写真を見ながら総合合わせでするものとばかり思っていた私は、正しく同定できるまでたいへん時間がかかり、とても苦労しました。

大学4年生の卒論のフィールドは、富山県城端町(現南砺市)の縄ヶ池でした。先生から「縄ヶ池でミズバショウとザゼンソウのすみわけ」について研究してみないかと言われ、尾瀬で有名なミズバショウに関する研究なら是非やってみたくてすぐにお願ひしました。縄ヶ池には先生に何度もご同行いただき、調査地の設定からデータのとり方まで、とても細かく丁寧にご指導いただきました。春から秋まで1~2週間に1回のペースで縄ヶ池に通って、ミズバショウとザゼンソウを含む植物・土壌・地下水位等の調査を行い、時にはカモシカやツキノワグマに遭遇しながら、とても楽しくフィールドワークができたことを思い出します。今思うと、その後たいした卒論も書けなかった私ですが、この時のフィールドワークの楽しさがきっかけで、修士課程への進学や現職の環境コンサルタントへの就職に繋がったのだと思っています。

修士課程の研究のフィールドは、北海道浜中町の霧多布湿原でした。先生の紹介で霧多布湿原センターから研究助成金を受けた湿原での研究です。私は、初めての北海道に行けるという嬉しさから、喜んで先生に霧多布湿原での研究をお願いしました。今回の研究テーマは、「霧多布湿原の分類と土壌(泥炭)との関わり」でした。先生には修士

1年生の最初の霧多布湿原入りの際に現地までご同行いただき、修論作成に向けたデータのとり方やまとめ方をご指導いただきました。但し、卒論時とは違い、自主的な研究姿勢を促していただき、主体性をもった研究に導く助言を多くいただきました。また、私は修士1年生と2年生の夏の約1ヶ月間を浜中町で過ごすことになりましたが、その際、先生から霧多布湿原センターや宿泊先等に私への助力をご依頼いただき、浜中町の皆さんにたいへん優しくしていただきました。この霧多布湿原での体験が、その後私が現在に至るまで北海道に居住するきっかけとなりました。

このほか、先生には私の大学4年生から修士2年生の3年間に立山、有峰湖、釜池、岐阜大学流域圏科学研究センター高山試験地等、いろいろなフィールドに連れて行っていただきました。私の3年間での拙い研究内容も先生の指導でブラッシュアップしていただき、日本生態学会大会等での発表機会を作っていただきました。このような様々なご指導を通じ、研究に関することばかりではなく、様々な人たちとのかかわりや交流の大切さも教えていただきました。大学院の修士課程を修了し、北海道で就職してからも、先生が来道されるたびにお声をかけていただき、昔話に花を咲かせ、楽しくお話しさせていただきました。

繰り返しになりますが、私が、今、北海道で何とか生活できているのは、小島覺先生のご指導の賜物以外の何物でもありません。先生にはご恩返しらしいことができず、悔いが残りますが、今はただ、先生からのご恩に感謝するとともに、先生のご冥福を心よりお祈り申し上げます。



1995年9月 立山室堂周辺を訪れた小島覺先生と私

小嶋 學先生との年代を越えた思い出

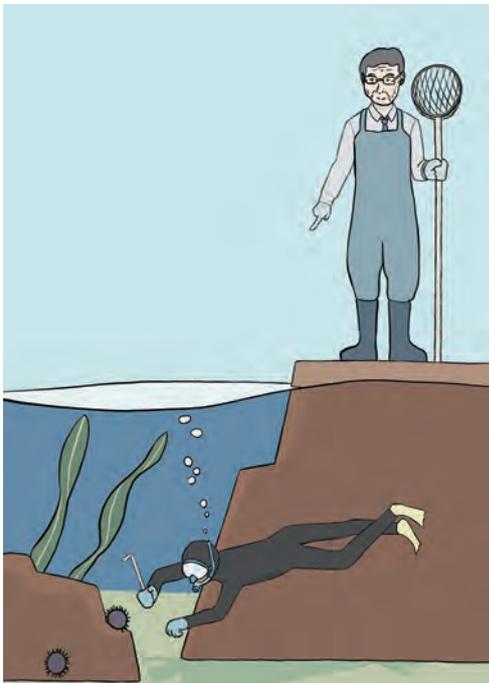
小嶋先生が在職されていた環境生物学研究室は、小嶋先生が退職された後もコロナウイルス感染症で途絶えるまで、研究室に所属した皆が1年に1度集まりOB・OG会が開かれていました。このOB・OG会は小嶋先生が退職された後、中村省吾先生、田中大祐先生へと受け継がれました。小嶋先生は、亡くなる数年前まで参加されていました。それぞれの年代で、継続している研究の話や卒業生と現役学生との交流があり、楽しいひと時であったと思います。小嶋先生は退職後、名古屋市のご自宅にて過ごされ、地域の老人会などに参加され活発に活動していました。歩くことが不自由になり介護施設に入れ亡くなるまで、はっきりと受け応えをされ、穏やかに過ごされていたそうです。小嶋先生に研究室で指導を受け、その後OB・OG会で過ごした時間は、皆の大切な人生の糧となっています。小嶋先生に感謝するとともに、卒業生が思い出を綴ることで追悼文に代えたいと思います。

.....

小嶋 學先生はウニの発生に関する研究をされていたことから、研究室のほぼ全員（退職された中村省吾先生とも）で、富山県氷見市の磯へウニや海水を採りに定期的に行きました。その際、ランチをご馳走になり、お話しできたのは楽しい思い出です。一方では、研究や生活のことなど厳しくご指導頂きました。現在、私は理学部の教員として勤務しております。時折、小嶋先生がどのように学生に対応されていたのかを思い出し、良いお手本として参考にさせて頂いております。小嶋先生のように学生さん一人一人に丁寧な対応をするのは難しいのですが、また、研究室のOB・OG会でお会いした際に教員としての心構えについてアドバイスを頂くなど、いつも気に掛けて頂いたので、大変感謝しております。

謹んでご冥福をお祈りいたします。

(田中、H2=1990年卒)



今から約40年前、小嶋環境研の扉をたたきました。チェーン付き眼鏡をかけた小嶋先生は、いつも物腰柔らかく学生に声をかけてくださいました。「何をやってみたいかね？」と研究室に入ったばかりの私に尋ねてくださいました。また、英語論文雑誌会で先生にしかられて、その後私が悔し涙を流していたと同期が話していたが、私はすっかり忘れてしていました。また、先生とそこで共に学んだ先輩・同級生と夜遅くまで実験したことが懐かしいです。夜遅くなって焼き鳥を食べたことや、研究室の皆でいろんな話をしながら飲み会をしたことがよみがえってきます。研究室の学生に呼ばれていた「バタヤン」というあだ名を小嶋先生も私に話しかける際に使っておられました。少し、イントネーションの違う響きが、こそばゆく感じました。どんな時も、穏やかでかつ品位のあった先生の面影は忘れません。あの時の自分が今、私の深い根になっています。本当にお世話になりました。

(水上(川端)、S61=1986年卒)

4年時に所属する研究室を決めるために何気なく小嶋先生の教官室を訪ねると、2時間近く熱く説明を受け、その熱意に押され、小嶋研にお世話になることに決めました。実験が思うように進まず悩んだ時も多々ありましたが、その都度先生に励まされ、背中を押していただきました。ウニを使った発生の研究だったので、人工授精させた翌日にはシャーレの中で元気に泳いでいる幼生も発生途中で死んでしまった胚もあり、命の神秘さや大切さを日々実感しました。そして、この感動を一人でも多くの人に感じてほしいと思い、卒業後教員になり、生徒たちと人工授精の実験をする道を選びました。私の教員としての原点は、4年時の研究と小嶋先生の熱く丁寧なご指導です。心よりご冥福をお祈りいたします。(真野(早川)、H3=1991年卒)

小嶋先生からお話いただいた言葉で一番記憶に残るのは、私の実験計画に対する考え方を正された時でした。「『燈台下暗し』という言葉を知っていますね。燈台は強い光を放ち、その光は遠くに届くかも知れないけれど、足元は暗いままで明るくはない。これでは、世の中をすべて明るくすることはできません。しかし、ひとりひとりがその足元を照らして明るくできれば、ついには世の中を明るくすることができるでしょう。」「研究もしかり、真理を明らかにしていくには、ひとつひとつの研究成果を積み重ねて、足元を照らすことからはじめて全体を明らかにしていくことが大事なのです。」このお話をされた情景を、富山大学を卒業してから40年経っても思い出すことができます。私にとって小嶋先生の人柄を感じる大切な言葉のひとつです。

(松井、S61=1986年卒)



小嶋先生が黒板に「一期一会」と書いて、イタリアでのチハク先生との研究の話など交えながら、生きる姿勢のようなものを話されていました。そこは教室だったので、学部生向けの最後の講義だったと思います。茶道も心得ていた先生が、茶事を起源とする言葉を座右の銘としていたのも納得です。

さて、1泊2日の環境研のOB会。忘れられない思い出です。2日目の午前、数台の車に分乗してある見学施設に向かいました。遅れ気味の私達の車も慌しく出発。到着すると、待っていた方から声をかけられました。「あれ？、小嶋先生は…？」

小嶋先生はお部屋で身支度を整え、静かに待っていたそうです。

最近、デパ地下で花びら餅を見かけました。花びら餅といえば小嶋先生が年明けに研究室に買ってきてくれる特別なお菓子です。デパ地下のそれは小嶋先生が持ってくるものより二回りくらい小さかったです。小嶋先生のはやはり特別感ありますね。その後は口にしてみませんが。

小嶋先生との研究室での出来事を思い起こしていると、何だかご存命でホーム暮らしをしていた頃よりもむしろ身近

に感じられました。名古屋からではこちらは見えなかったでしょうが、空の上からは筒抜けでしょう。ここしばらくの自分自身の研究姿勢が悪くなっていたことに気づきました。反省しています。小嶋先生に「しっかり研究頑張っています」と、胸を張れるように引き締めねばと思う次第です。
(田口、H4=1992年卒)



後藤克己先生との思い出と共に

立教大学特別専任教授 宮部寛志 (S57=1982 理学研究科修了)

後藤克己先生（富山大学名誉教授）が2023年2月2日にご逝去されました（享年93歳）。1973年10月、（後の）理学部化学科に分析化学講座を開設されるため、北海道大学から本学に赴任されました。分析化学分野の教育・研究活動にご尽力下さり、退職される1995年3月までに150名余の卒業生を指導しておられます。全学的にも評議員や廃液処理施設長等をお務めになり、本学の発展に大きく貢献されました。本拙稿では、後藤先生に多くをご教示頂いた卒業生の一人として先生との思い出を振り返り、そのご指導に感謝申し上げますと共に、ご冥福をお祈り致したいと存じます。

『5研』と記したファイルが手元にあります。後藤研究室の大事な思い出の品が保管されています。後藤先生のご退職に合わせて企画された『第500回記念雑誌会』の冊子もまたその一つです。後藤先生が学生の頃から本学に赴任された頃までの思い出を記しておられます。先生が本学に赴任された際には、いろいろな想いがお有りであったろうと思います。先生の最初の研究室は古い木造校舎の一室で、私が学生の頃にも残っていました。北海道大学とは比較できない程に劣悪な状況の中でも分析化学の教育・研究の種を蒔いてその芽を育てられ、その後田口茂先生や波多宣子先生と共に研究室を充実させてその芽を大きく成長させられました。我々卒業生はそこでご指導頂き、各々の花を咲かせました。そしてその中でも一際見事な大輪の花として咲いたのが笠原一世先生でした。修士修了、学位（博士号）取得そして海外留学について卒業生の中では何れも第一号で、我々後輩は一番弟子である笠原先生の背中を追いかけ

ていたように思います。

笠原先生は更に教員としても研究室の発展に大きく寄与され、数多くの学生が笠原先生にご指導頂きました。多くの卒業生の皆様が学生時代を振り返る時、そこには笠原先生の姿があるのではないのでしょうか。後藤研究室の歩みを考える時、田口先生や波多先生の長年の多大なご貢献と共に、笠原先生の存在を忘れることはできません。笠原先生は研究室の重要な研究テーマである『イオン会合を用いる分離分析法の研究』を展開して研究面でも貢献されました。この研究の成果がご自身の学位取得、更には後藤先生の1991年度日本分析化学会学会賞のご受賞につながっております。しかし本当に残念ですが、2003年9月12日に笠原先生は天逝されました。後藤先生を師と仰ぎ、また父親のような存在として慕っておられた笠原先生のご逝去は、その後の益々のご活躍が期待されていたことを考えると、後藤先生にとっては痛恨の極みであったであろうと思います。後藤先生との出会いが笠原先生の人生を方向付け、その巡り合わせによって笠原先生は大学人としての足跡を残されました。多くの方がかけがえのない人を失ったと笠原先生を悼み、後藤先生も笠原先生追悼文の中で「笠原君が自分の追悼文を書いてくれるだろうと思っていた」と無念の思いを述べておられます。本来であれば卒業生によるこの追悼文も、後藤研究室の一番弟子である笠原先生が執筆されることが最も相応しかったと思います。

後藤研究室の基本方針は『学生の自主的な勉学と研究』であったと思います。拙い知識に基づいて考えた研究課題について「まあ～やってみなさい」と後藤先生に言われた

ことがあります。後から笠原先生が「後藤先生がそのように言われる時は、それは面白そうだから検討してみると良い」という意味だと翻訳して下さいました。後藤先生は自ら努力して課題に取り組むことにより成長する機会を学生に与え、その姿を大所高所から見守って指導されたように思います。それは新穂高のスキーにも通じるのだらうと思います。

また『自由な発想に基づく議論』も基本方針の一つであったと思います。研究室には、お昼休みにも夕方のお茶の時間にも皆が集まれる大きなテーブルがありました。その本意は研究内容について自由に議論できる有用な情報交換の場の提供であったと思いますが、その真意が分からない我々不肖の学生達は専ら休憩の場としてそれを利用していました。しかし、この大きなテーブルを囲んでの自由な議論の中からイオン対抽出に関する『固有抽出定数』の概念が誕生したと伺ったことがあります。その経緯については上記の冊子の中で田口先生が詳しく紹介しておられます。イオン対抽出の正確な実験データを網羅的かつ緻密に集積する技術力、既存概念の枠に囚われない自由な発想力と実験結果を俯瞰的に視てその本質に迫る解析力、これらが相乗的に機能して生まれた後藤研究室の極めて優れた研究成果の一つだと思います。

後藤研究室でご指導頂いた事柄は多過ぎて限られた紙面では記述しきれませんが、その一つが『正しい日本語』です。おそらく殆どの学生が「これは日本語じゃないな」とご指導頂いたものと思います。この拙稿も「後藤先生に日本語として読んで頂けるかな」と緊張して記述しています。また、上記の『固有抽出定数』の概念にも何等かの形で関わりたいと考え、その理論基盤について自分なりに検討し

ました。その結果をまとめた英文原稿に対する後藤先生の添削メモも大事に保管してあります。昔「これは日本人英語だな」とご指導頂いたことを思い出しながら、「まだまだ英語が上手くなっていない」とそのメモを見る度に反省しています。

上記の冊子には数多くの卒業生からの寄稿文も掲載されています。何れにも、後藤研究室で過ごした学生時代を懐かしみ、そして後藤先生のご指導に対する感謝の言葉が記されています。研究室の定例の雑誌会や研究活動の進捗状況報告の際には勿論厳しくご指導頂きましたが、それがその後の自分達の活動の基礎になっていると卒業生は皆捉えています。勉学や研究活動に対する真摯な取り組み姿勢と共に、いろいろなイベントの楽しく豊かな記憶が研究室の思い出として卒業生の心に刻まれています。そのような研究室の指導方針・教育環境の中で我々は成長させて頂きました。

後藤先生から頂いたこの大きなご恩に直接報いることはもうできません。しかし、後藤先生との大事な様々な思い出を卒業生は誰もが皆持っており、何時でもそれを思い起こすことができます。そしてそこに後藤先生の面影や眼差し、その姿を我々はいつも見ることができます。後藤克己先生との思い出と共に、卒業生各々が自分の人生をしっかりと進んで行くことこそが一番のご恩返しになるものと思います。

休日の夕刻に後藤先生の研究室から聞こえてくるバイオリンの音色を懐かしく思い出しつつ、種々ご縁がございましたので、笠原先生に代わり本拙稿を執筆させて頂きました。

西村 格先生との思い出

帯広畜産大学准教授 川村健介 (H12=2000 生物圏環境科学科卒業)

西村格先生の訃報が届いたのは、まだコロナ禍にあった2021年8月の暑い夏の日のことでした。登山好きの西村先生のことなので「まさか山から滑落されたのでは？」との考えがふと頭をよぎったのを覚えています。私にとって先生の印象は、「質実剛健」な草地研究者であり、写真家としての一面も持ち合わせた不思議で偉大な恩師です。学生時代は、「おしゃべりが大好きおじいちゃん」としか思っていませんでしたが、同じ草地研究の分野で、岐阜大学から農業環境技術研究所（現在の農研機構）へ、先生のキャリアを逆行する形で道を歩んでいった結果、その背中がどんどん遠くに感じられるようになってしまいました。

西村先生との最初の出会いは、1998年秋の研究室配属を決める時期だったように思います。当時、西村先生は、岐阜大学から富山大学へ赴任されたばかりで、まだ、学生たちにもあまり知られていない先生でした（私が講義をサボっていただけかもしれませんが）。それでも植物生態学の西村・和田研究室は大人気、受け入れ上限を大幅に超える8名の学生が配属希望を出す状況でした。成績の悪かつ

た私は、配属希望が通る可能性は低いだらうなと半ば諦めつつ、先生のお部屋のドアをノックしたのを覚えています。その数日後、8人全員が研究室に配属されることになった時は、全員で歓喜しました。その一方で、少し疲れた表情の和田先生（当時は助手）の様子から察するに、研究室配属の会議で西村先生の剛腕が発動され、我々を救ってくれたんだなと感謝しています。

西村・和田研究室で8名の同級生と過ごした1999年は、人生の中でも特に時間の濃縮された貴重な1年間でした。呉羽丘陵のアカネズミ生態調査では、様子を見に来てくれた西村先生を取り囲んで、お酒を飲みながら夜通し調査を行ったこともあり（写真左）。また、岐阜大学の大学院進学を希望していた私と上山さんを連れて岐阜大学高山試験地を訪れた際には、その後の私の研究人生を導いてくれる秋山侃先生（現在、岐阜大学名誉教授）をご紹介いただきました。その日のうちに、自分の卒業研究のテーマと大学院進学の話がまとまってしまった時は、先生の行動力と決断力に驚かされたのを覚えています。ただ、富山か

ら岐阜の道中の車内では、「山道の走行にはサスペンションが重要であること」を3時間近く力説されたことしか覚えていないのが不思議です。

我々の卒業（2000年3月）と同時に西村先生も大学教員の退官を迎えました（写真右）。気が付けば、我々が西村先生の最後の学生だったわけです。この原稿を執筆するにあたり、当時の仲間たちに協力（写真の提供や思い出話等）を依頼しました。先生のおかげで、卒業後20年以上の時間が経過した現在でも、心から頼れる仲間ができました。



1999年9月17日 吳羽丘陵二次林で夜行性のアカネズミ生態調査のため、キャンプをしながら夜を明かす研究室メンバー



2000年3月24日 富山大学卒業式後の集合写真の様子
(写真提供：松田道子氏、下段左から2番目)

水谷義彦先生の教えを継ぐ

日本原子力研究開発機構 岩月輝希（H5=1993 地球科学専攻修了）

追悼文を書くのが私で適任かという迷いはありますが、今の私があるのは、人生の最も大事な時期に水谷義彦先生と出会って、公私ともに様々なご指導、相談にのって頂いた結果であり、感謝の言葉しかありませんので、微力ながら謹んで追悼の意を捧げます。

私が学生時代を過ごしたのは、現在の理学部自然環境科学科の前身の前身である地球科学科の時代であり、当時の陸水学講座におられた水谷義彦先生、佐竹洋先生、吉田尚弘先生をはじめ、他の講座も含めて様々な分野の先生にご指導を頂きました。陸水学講座では、主に天然の同位体を指標として地下深部から大気圏までの水循環や物質循環の全体をカバーする様々な研究が行われており、将に地球化学の最先端を総合的に体験できる場でした。

それぞれの先生が独自の研究フィールドで活躍しておられ、火山活動や温泉のでき方、地下水の循環、地球温暖化ガスの生成・循環プロセスなど、自然科学系人間の好奇心を刺激する様々なテーマで、先生と学生が試料採取のための実験装置や分析のための前処理装置を手作りするところから、卒業論文や修士論文の指導が行われ、学生にとっては自立して物事を考える力も育ち、非常に恵まれた環境でした。

た。その思い出の一つ一つは、ここでは書ききれないほどで、先生と出会い、ご指導を頂いたことが私の人生最大の幸運の1つです。本音を言うと、先生から「健介、来週時間空いてる？山行かない？」と急に電話がかかってきそうな気がしていて、ちょっとだけ期待している自分もいます。それも今はかないませんので、ご自慢のカメラと山を元気に登っているお姿を思い浮かべながら、先生の御冥福をお祈りするばかりです。

水谷先生は、火山や地下水などの研究分野で学生を指導され、多くの門下生を輩出されています。今回、追悼文を書くのにあたり、幾人かの卒業生の方とやり取りしましたが、「水谷先生は基本的に笑顔でいることが多い優しい方でしたが、ときには厳しく緊張感のあるご指導をしてくれました」というのが、多くの門下生に共通する思い出となっています。卒業生の多くが、富山大学で水谷先生にご指導を頂いて良かったと思いかえすことができる、非常に充実した青春の一時代をそれぞれの門下生に与えてくれました。

先生のライフワークの一つともなっていた立山地獄谷の火山ガスや堆積物の同位体を用いた地球化学研究では、卒業論文や修士論文でそれらのテーマに取り組んだ学生と伴にフィールドで過ごし、大事なポイントでは厳しく指導し、大学の実験室では自分の受け持ちでない学生に対しても、皆の好奇心を煽って地球化学の基礎を丁寧に教えて頂きました。

私自身も、原理をよく理解せずに危なっかしい実験（その内容は今となっては途方もなく幼稚で、恥ずかしすぎてとてもここに書くことができません…）をやっていたときに、なぜ危険なのか、どういう事故が起こる可能性があるのかを、火山の水蒸気爆発の原理に例えながら厳しく教え

論して頂いたことが忘れられません。今でも、やかんでお湯を沸かす時に、当時の水谷先生の声とセリフを思い出します。

門下生の多くは、自然を相手にする調査会社や研究機関などに就職しています。就職後も水谷先生を頼り、会社の業務で調査に関わる天然試料の同位体分析を共に行ったり、様々な解析方法の知恵を頂いたりして、社会人として一人前になるまでお世話になった門下生がたくさんいます。私自身も就職した職場で地下水の年代推定技術の研究などを行っていたので、度々、水谷先生に私のフィールドに来て頂いて相談にのって頂いたり、先生の退官後も厚かましくご自宅にお伺いさせて頂いたりして、繰り返しご指

導を頂きました。そのおかげで、様々な学会で成果を公表したり、先生と共同で論文を出したりすることができ、どうにか独り立ちしてやっていける研究者として育てて頂きました。卒業してから30年近く経ちますが、未だに水谷先生の授業のノートを見かえして確認することもあり、年齢を重ねるごとに教えて頂いた事が何十年にもわたって役に立つ如何に大事な事だったのかを実感しています。

水谷先生が育てた門下生は社会で様々な形で活躍しており、先生一人が亡くなった後もその何十倍もの数の教え子達が水谷先生の意志を継いで、いま生きています。

心よりご冥福をお祈り申し上げます。



学生と共に火山ガス噴気孔のガス試料採取のために訪れた立山地獄谷にて（1990年夏）

写真提供：応用地質株式会社 地球環境事業部 堀 雅明



地球科学科卒業式後の謝恩会の時の集合写真（1991年春 最前列右から3人目が水谷先生）

写真提供：応用地質株式会社 地球環境事業部 堀 雅明



富山支部だより

富山支部長 熊田重勝（化学 22 回卒業）

雪紋、富山支部の皆さまにおかれましては、日頃より本会の活動にご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。

2024 年は元旦から、能登半島地震という非常に大きな災害が起きました。今なお厳しい避難生活を過ごされている被災地の皆様には心よりお見舞い申し上げます。また、近年国際的には、ウクライナの戦乱、イスラエルとパレスチナの紛争などがあり、とても不安な状態が続いております。今年はいさしでも世界に安全と平和が戻ってほしいと心から願っております。



また、クラリベイト引用栄誉賞（2022 年）を受賞された長谷川成人先生（富山大学理学部生物学科（1984 年卒）、現在東京都医学総合研究所脳・神経科学研究分野長）をお招きしての理学部主催の『脳・神経科学シンポジウム～脳疾患に関する研究最前線～』8 月 25 日開催にも参画しました。初めての学内理学部主催のシンポジウムです。シンポジストの先生は下記のとおりです。

- ・酒井 秀紀（富山大学副学長 薬学部）
- ・関根 道和（富山大学医学部長）
- ・宮本 憲優（筑波大医学医療系教授
エーザイ株式会社筑波研究所主幹研究員）
- ・中町 智哉（富山大学術研究部理学系講師）

シンポジウムの講演内容は学生、教職員そして一般の皆様にもわかりやすく、係る疾患の原因から治療に至るまでの基礎及び応用研究の最前線を報告していただき、好評でした。本学ではスプリング事業、フェローシップ事業が実

施されており、本学出身研究者の研究最前のお話は、特に雪紋同窓生に明るい未来と希望と大きな研究心を芽生えさせたと確信しています。

2023 年度キャリアデザイン講座（R5 年 11 月 1 日から R6 年 2 月 7 日）では、学生と 16 名の熱意のある先輩講師（同窓生 OB）たちと直接触れ合う交流を持つことが出来、先輩達のキャリアデザインは多くの学生に様々な気づきと勇気を与えてくれました。ご講義をお引き受けいただいた OB の皆様に心よりお礼を申し上げます。ありがとうございました。

さらに、今年初めて、在学中の後輩同窓生と情報交換会を開催いたしました。理学部生と OB との自己紹介から始まり忌憚のない意見交換ができ、若き後輩たちの同窓会の考え方も聞くことができ、励みになりました。今後年 2 回は開催できればと思っています。

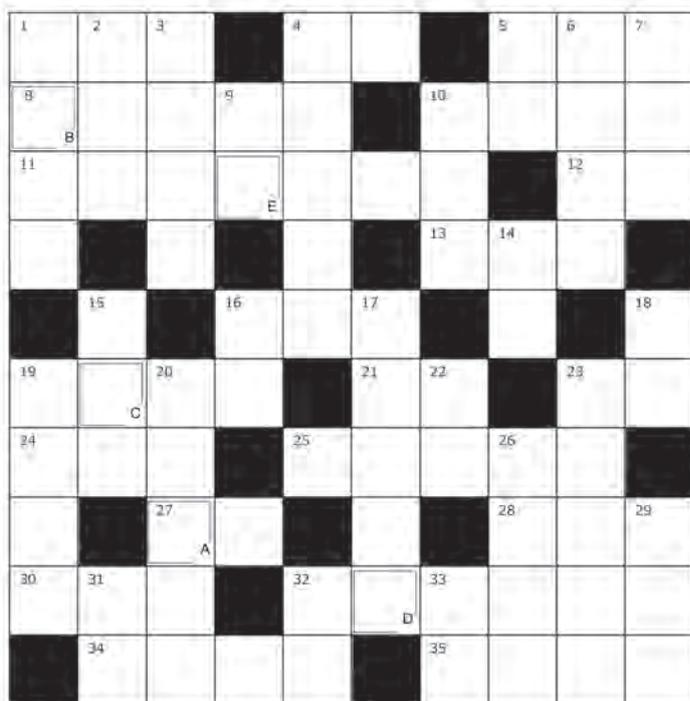
前回、理学部同窓生のウェルビーイングについて言及しましたが、雪紋富山支部は同窓生個々の世代にあった企画をして、同窓生同士が楽しみ、高め合い、理解しあえる幸せになれる環境を作り上げていきたいと思っております。2024 年は、雪紋 OB の情報交換会や生涯学習について検討しております。ご期待ください。

最後になりましたが、皆さまのますますのご健勝とご発展を心からお祈り申し上げます。



支部役員と学生との懇談会（2024 年 4 月 6 日）

懸賞付きクロスワード・パズル



<タテのカギ>

1. 百獣の王
2. わらで作った器
3. カナダ中部の都市
4. 尊敬、敬意
5. 戦いの相手
6. 外国で製品を販売すること
7. 脊椎骨の仙骨よりも下部にあるもの
9. 時雨
10. ルウェーの画家。代表作は『叫び』
14. 滋養強壮に効くアブラナ科植物
15. 一筋の路
16. 新しいこと
17. ライセンス
18. その度ごと
19. 背中にトゲのあるトカゲ
20. 中東の地中海に面した国
22. 絵や写真を収める枠
23. 錆びた鉄
26. マメ科の一族でミモザとも言われる
29. あたたかみ
31. 敗北
32. 元素記号は「P」

<ヨコのカギ>

1. 比較的大きなネズミ類
4. 10の8乗
5. 手の末端
8. 瀬戸内海に浮かぶ島
10. 無機物の性質
11. マレー語で森の人
12. 結うこと
13. 文章の最後
16. 自書
19. 構成員
21. 静的な瞑想
23. 鼻の上に角がある動物
24. 差引きなし
25. 計画案
27. 子羊
28. チョコレートの原料
30. 名称
32. 2023年ノーベル化学賞を受賞した発明
34. 絶対温度
35. 圧力を高くする装置

<クイズの回答>



<引用>

- ・広辞苑 第六版／岩波書店
- ・明鏡国語辞典 第二版／大修館書店

(クイズ提供：中村幸絵 56化)

<懸賞品と応募方法>

下の二次元コードよりご覧下さい。
奮ってのご応募お待ちしております。

<応募締切>

2024年10月31日



[1] 会員情報

(1) 物故者 氏名、卒業回・年、学科、修了回・年、死亡日 2024年3月までに連絡のあった物故会員

小島 覺、旧教員、生物圏環境科学科、2023年3月30日死去
高桑 靖夫、8回、S35=1960、数学、2023年5月13日死去
中 裕、26回、S53=1978、数学、2023年9月18日死去
永井 謙一、27回、S54=1979、生物、2022年11月16日死去
萩原 教圓、8回、S35=1960、生物、2022年10月27日死去
林 憲康、17回、S44=1969、数学、2023年5月25日死去
伴 禎、37回、H元=1989、物理、2022年9月24日死去
前川 昭紀、19回、S46=1971、数学、2020年3月死去
前川 豊彦、19回、S46=1971、化学、2022年8月17日死去
谷敷 慎一、27回、S54=1979、数学、2023年3月4日死去
吉野 達男、33回、S60=1985、物理、2022年12月14日死去
和田 豊、11回、S38=1963、化学、死去
綿鍋 維男、13回、S40=1965、生物、死去

(2) 教職員の異動 (令和6年4月1日現在)

[採用]

R5. 4. 1 小川 知弘 学術研究部理学系 (化学科) 特命助教
R6. 4. 1 宇田 智紀 学術研究部理学系 (数理情報学プログラム) 特命講師
R6. 4. 1 清水 雄貴 学術研究部理学系 (数学プログラム) 助教
R6. 4. 1 中野 佑樹 学術研究部理学系 (物理学プログラム) 助教
R6. 4. 1 高森 敦志 学術研究部理学系 (化学プログラム) 特命助教
R6. 4. 1 岡本 一央 学術研究部理学系 (化学プログラム) 助教
R6. 4. 1 木下 豪太 学術研究部理学系 (生物科学プログラム) 助教
R6. 4. 1 Peterson Miles Isao 学術研究部理学系 (自然環境科学プログラム) 助教

[昇任]

R5. 10. 1 玉置 大介 学術研究部理学系 (生物学科) 講師
R5. 10. 1 佐澤 和人 学術研究部理学系 (自然環境科学科) 講師
R6. 4. 1 森岡 絵里 学術研究部理学系 (生物学科) 講師
R6. 4. 1 太田 民久 学術研究部理学系 (自然環境科学科) 講師

[退職]

R5. 9. 30 小川 知弘 学術研究部理学系 (化学科) 特命助教
R5. 9. 30 西澤 (片境) 紗希 学術研究部理学系 (自然環境科学科) 特命助教
R6. 3. 31 廣島 渚 学術研究部理学系 (物理学科) 助教
R6. 3. 31 細木 藍 学術研究部理学系 (自然環境科学科) 特命助教
R6. 3. 31 日下部 實 学術研究部理学系 (自然環境科学科) 研究員

[2] 活動報告

(1) 2023 (R5) 年度 第1回理事会

日時：2023年5月24日 (水) 18:30～

場所：富山大学理学部1階 B136 大会議室

議事：1) 令和4年度業務・活動報告

2) 令和4年度決算報告および監査報告

3) 令和5年度役員 (案)

4) 令和5年度事業・活動計画 (案)

5) 理学部研究助成 (案)

6) 令和5年度会計予算 (案)

7) 会則改正に伴う年会費規則の修正

8) その他

(2) 令和5年度研究助成事業

募集期間：2023年7月1日～2023年8月31日

3件を採択

(3) 第14回富山大学同窓会連合会総会・記念講演会

日時：2023年7月13日 (木) 18:00～

場所：富山電気ビル

記念講演会：演題「富山県の薬業と信頼回復の取り組み」

講師 川尻 千賀子 氏 富山県薬業連合会

常務理事 (薬窓会)

(4) 富山大学理学部同窓会 創立 70 周年記念行事

日時：2023 年 7 月 22 日（土）13：30～

場所：富山大学理学部多目的ホール、生協（懇親会）

1. 理学部 施設見学会

2. 年次総会

1) 令和 4 年度事業報告、会計決算報告、監査報告

2) 令和 5 年度事業計画、会計予算案

3. 70 周年記念式典

1) 開会の辞

2) 物故者への黙祷

3) 同窓会長挨拶

4) 感謝状贈呈

5) 祝辞

6) 祝電披露

7) 記念事業

8) 閉会の辞

4. 記念講演会

演題：「認知症の病態形成と進行機構」

講師：長谷川 成人 氏 東京都医学総合研究所
生物学科卒

5. 記念撮影

6. 懇親会

(5) 富山大学理学部同窓会ホームカミングデー

日時：2023 年 9 月 24 日（日）13:20～

場所：富山大学理学部

内容：サイエンスフェスティバルへの参加

(6) 富山大学ホームカミングデー

日時：2023 年 10 月 14 日（土）10：00～

場所：富山大学高岡キャンパス西隣 万葉社会福祉センター

内容：学長 齋藤 滋 氏 挨拶他

(7) 理学部キャリア・デザイン講座支援

期間：2023 年 11 月 1 日（水）～ 2024 年 2 月 7 日（水）

(8) 能登半島地震災害見舞状（葉書）送付

日時：2024 年 2 月 8 日（木） 1,566 件

(9) 富山大学理学部学位記授与式支援

日時：2024 年 3 月 22 日（金） 記念品贈呈

[3] 理学部キャリア・デザイン講座 2023 支援

第 1 回（11/1, 水曜）

講師：高岡向陵高等学校 藤川 武命 様（物理）

演題：「高等学校における探究学習の現在と未来」

講師：三耐保温（株） 南 遼太郎 様（数学）

講演：「大学生の今、何をするか。」

第 2 回（11/15, 水曜）

講師：テイカ製薬（株） 関 誠 様（生環）

講演：「県内医薬品メーカーでの仕事 ～学び続けること
の大切さ～」

講師：協和ファーマケミカル（株） 布野 隆裕 様（化学）

演題：「原薬メーカーでのお仕事と私のキャリア（視野
を広げてみませんか?）」

第 3 回（11/22, 火曜）

講師：（株）TBS テレビ （株）AKALI

蛭田 健司 様（数学）

演題：「発展を続けるゲーム業界の展望とキャリアの築
き方」

講師：矢崎総業（株） 山下 淳 様（物理）

演題：「理学部出身であることの強み（新しいことを始
めるときに考えること）」

第 4 回（12/13, 水曜）

講師：（株）トンボ飲料 沖野 寿幸 様（化学）

演題：「職業を選択する際に考えたこと」

講師：エーザイ（株） 宮本 憲優 様（生物）

演題：「human health care 理念に基づく創薬研究」

第 5 回（12/20, 水曜）

講師：砺波東部小学校 金岡 一孝 様（数学）

演題：「教師という仕事」

第 6 回（1/10, 水曜）

講師：救急薬品工業（株） 西川 久信 様（化学）

演題：「医薬品メーカーでの経験から」

講師：金森産業（株） 脇本 孝俊 様（生環）

演題：「就社でなく就職のすすめ」

第 7 回（1/17, 水曜）

講師：日本 IBM（株） 伊藤 真弥 様（物理）

演題：「自分らしいキャリアを築くには！」

講師：東京パワーテクノロジー（株） 安松 拓洋 様（数学）

演題：「困ったときの大学頼み」産学連携での課題解決

第 8 回（2/7, 水曜）

講師：（株）インテック 神田 柚紀 様（生物）

演題：「未経験から IT 企業の研究者として働いてみて」

講師：大阪大学理学研究科 柳生 慶 様（物理）

演題：「アカデミアの魅力 ～博士を取ることの意義～」

2023年度 理学部同窓会役員・活動委員会名簿

理学部同窓会役員

顧問	平田 卓郎 (化, 1回, S28=1953)	米谷 正広 (地, 29回, S56=1981, 院 S58=1983),
	北野 芳則 (化, 8回, S35=1960)	大門 朗 (化, 32回, S59=1984)
	川田 邦夫 (物, 14回, S41=1966)	組織強化委員長
	西野 俊一 (物, 21回, S48=1973)	蒲池 浩之 (生, 37回, H01=1989,
	石黒 幸男 (化, 21回, S48=1973)	院 H03=1991), 広報委員長
	高井 正三 (物, 21回, S48=1973)	岡田 知子 (環, 45回, H09=1997,
名誉会長	松田 恒平 (理学部長) (生, 33回, S60=1985, 院 S62=1987)	院 H11=1999), 研究教育委員長
会長	水島 俊雄 (物, 22回, S49=1974)	藤川 武命 (物, 54回, H18=2006)
副会長	熊田 重勝 (化, 22回, S49=1974)	事業委員長
	松永 豊 (生, 34回, S61=1986)	学内理事 古田 高士 (数学・数理情報プログラム)
	上田 肇一 (理学部副学部長)	桑井 智彦 (物理学プログラム)
幹事長	田中 大祐 (生, 38回, H02 = 1990, 院 H04=1992)	野崎 浩一 (化学プログラム)
常任理事	池田 榮雄 (数, 24回, S51 = 1976)	唐原 一郎 (生物科学プログラム)
	岩坪 美兼 (生, 26回, S53 = 1978, 院 S55=1980)	田中 大祐 (自然環境科学プログラム)
	副幹事長・総務委員長	監査委員 安江 健一 (地, 45回, H9=1997, 院 H11=1999)
		中町 智哉 (生, 48回, H12=2000, 院 H14=2002)

活動委員会委員名簿

活動委員会名称	○委員長 委員
総務委員会	○岩坪美兼 (生, S53), 中田哲也 (化, S58)
事業委員会	○藤川武命 (物, H18), 田中大祐 (生, H2), 辻 直史 (数, S49), 佐藤 卓 (生, S52), 林美貴子 (生, S45)
広報委員会	○蒲池浩之 (生, H01), 中村幸絵 (化, H20), 林 有一 (物, S40), 水野 透 (数, S44), 上山 勉 (化, S46), 荒木敏勝 (化, H07)
組織強化委員会	○大門 朗 (化, S59), 小川清美 (化, S35), 金坂 績 (化, S39)
研究教育委員会	○岡田知子 (環, H9), 池田榮雄 (数, S51), 米谷正広 (地, S56), 常川省三 (物, S39), 畠山豊正 (物, S39), 二宮 努 (数, S54)

支部長	熊田 重勝 (化 22, S49=1974)
副支部長	松永 豊 (生 34, S61=1986)
	木戸 瑞佳 (地 41, H05=1993, 院 H07=1995)
支部幹事長	大門 朗 (化 32, S59=1984)
支部幹事	金岡 一考 (数 30, S57=1982)
	藤川 武命 (物 54, H18=2006)
	佐藤 卓 (生 25, S52=1977, 院 S54=1979)
	中田 哲也 (化 31, S31, S58 = 1983)
	永田 清則 (化 32, S59=1984)
	岡田 知子 (環 45, H09=1997, 院 H11=1999)
支部監査	副支部長が代行

関東支部役員

支部長	藤森 洋行 (物 36, S63=1988, 院 H02=1990)
副支部長	小島 由樹 (物 31, S58=1983, 院 S60=1985)
支部幹事長	下田 弘 (化 8, S35=1960)
支部幹事	浦山 茂 (物 12, S39=1964)
	小山 哲朗 (化 13, S40=1965)
	高橋 亨 (地 30, S57=1982)
	宮崎 政志 (物 32, S59=1984)
	杉山 弘 (物 33, S60=1985)
	谷口 泰弘 (物 36, S63=1988)
支部監査	副支部長が代行

富山支部役員

支部顧問	小川 清美 (化 8, S35=1960)
	高井 正三 (物 21, S48=1973)
	水島 俊雄 (物 22, S49=1974)

2022年度（令和4年度）決算報告・会計監査報告

2022年4月1日～2023年3月31日

■一般会計

【収入の部】

（単位：円）

費目	予算額	決算額	差引額*1
入会金	3,360,000	3,120,000	△ 240,000
年会費前受金	210,000	210,000	0
年会費	160,000	274,000	114,000
寄付金	100,000	524,001	424,001
懇親会費預り金	100,000	0	△ 100,000
預金利息	20	29	9
雑収入	616	0	△ 616
前年度繰越金	2,232,126	2,232,126	0
計	6,162,762	6,360,156	197,394

*1（決算－予算）

【支出の部】

（単位：円）

費目	予算額	決算額	差引額
事務費	1,070,000	1,043,105	△ 26,895
備品費	0	0	0
広報関係費	500,000	454,810	△ 45,190
事業費	200,000	0	△ 200,000
支部事業費	100,000	100,000	0
会議費	200,000	85,787	△ 114,213
人件費	800,000	916,008	116,008
卒業式支援費	500,000	473,135	△ 26,865
分担金	70,000	66,400	△ 3,600
特別会計	410,000	410,000	0
予備費	2,312,762	0	△ 2,312,762
計	6,162,762	3,549,245	△ 2,613,517

差引残高＝収入額－支出額＝6,360,156円－3,549,245円＝2,810,911円 は次年度へ繰り越し

■特別会計

【収入の部】

（単位：円）

費目	予算額	決算額	差引額
前年度繰越金	1,660,415	1,660,415	0
利息	20	41	21
一般会計から組入	410,000	410,000	0
計	2,070,435	2,070,456	21

【支出の部】

（単位：円）

費目	予算額	決算額	差引額
名簿作成費	0	0	0
記念事業費	0	0	0
理学部研究補助基金	200,000	0	0
退職準備金	0	0	0
予備費	0	0	0
計	200,000	0	0

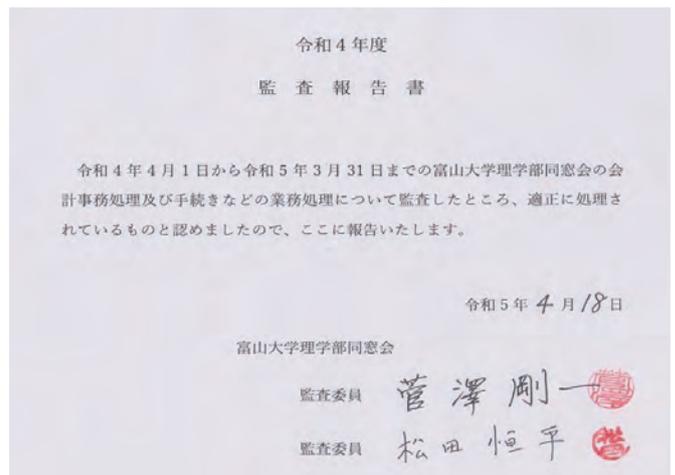
差引残高＝収入額－支出額＝2,070,456円－0円＝2,070,456円 は次年度へ繰り越し

■年会費会計

（単位：円）

費目	収入の部	支出の部	差引額
前年度繰越金	2,288,000	0	2,288,000
年会費	1,676,000	484,000	1,192,000
計	3,964,000	484,000	3,480,000

3,480,000円は次年度へ繰り越し



年会費の納入状況を確認する方法

年会費の納入状況は宛名部分の印字で確認できます。

()	括弧内が空欄の方は年会費を納入ください。
(③)	平成 28 年 5 月 26 日制定の「富山大学理学部同窓会 10 年会費徴収に関する要綱」(令和元年 7 月 27 日廃止)に従い、「10 年会費」を納入された方です。 令和 2 年(2020 年)度から 3 年間は集金免除となっていました。 詳しくは「富山大学理学部同窓会年会費集金に関する規則」参照
(<u>A</u> - <u>B</u>)	<u>A</u> は年度を表します。「20」は 2020 年度、「21」は 2021 年度・・・です。 <u>B</u> は何年分かを表します。「1」は 1 年分、「10」は 10 年分・・・です。 【例】 (20-5)は 2020 年度に 5 年分の年会費を納入された方です。 ┌─▶ 納入された年度(この場合 2021 年度を表す) (<u>21-10</u>) └─▶ 何年分かを表しています(この場合 10 年分を表す) (20-1, 21-5)は 2020 年度に 1 年分、2021 年度に 5 年分の年会費を納入された方です。
(<u>A</u> -終身)	<u>A</u> は年度を表します。 <u>A</u> の年度に終身(25 年分)の年会費を納入された方です。
(-)	年会費納入の対象ではありません。(準会員、特別会員等)

※年会費について、詳しくは「富山大学理学部同窓会年会費集金に関する規則」を参照してください。

※2024 年 4 月～2025 年 3 月末までに納入された年会費は、2024 年度分の年会費となります。



理学部キャリア・デザイン講座2023での講義風景



令和5年度学位記授与式 2024.03.22 於 ボルファートとやま

編集後記

まずは能登半島地震で被災されました方々にお見舞いを申し上げます。依然厳しい状況が報じられておりますが、1日でも早く日常を取り戻せますよう願っております。

今号より、新たな同窓会名称である「雪紋」を冠した表紙となりました。雪紋の発行にあたり、素晴らしい原稿や写真を快くお寄せいただいた皆様に心より感謝申し上げます。特集Ⅳでは、新たな試みとして卒業生の近況報告を企画しました。いかがでしたでしょうか。ご意見・ご感想をお聞かせいただくと嬉しく思います。今後とも、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

広報委員長 蒲池浩之

富山大学理学部同窓会報 2024年版

雪紋 vol.43 (理学部同窓会報通巻43号)

理学部同窓会報編集委員会 (広報委員会)

蒲池浩之 (37生)、中村幸絵 (56化)、荒木敏勝 (43化)
水野 透 (17数)、林 有一 (13物)、上山 勉 (19化)

印刷：株式会社なかたに印刷 TEL:076-465-2341
〒939-2741 富山市婦中町中名1554-2

お知らせ

理学部は、1学科6プログラムに生まれ変わりました
数学／数理情報学／物理学／化学／生物科学／自然環境科学



理学科

数学プログラム	数理情報学プログラム	物理学プログラム
化学プログラム	生物科学プログラム	自然環境科学プログラム

+

全てのプログラムから選択できる

国際コース

富山大学理学部同窓会報

雪 紋 Vol. 43

発 行 令和6年6月10日
編集・発行 富山大学理学部同窓会
〒930-8555 富山県富山市五福 3190
富山大学理学部2号館 B305
電話 (076) 411-4803

印 刷 株式会社なかに印刷
〒939-2741 富山市婦中町中名 1554-23
電話 (076) 465-2341

